

ハウスミカンにおける環境制御技術の開発

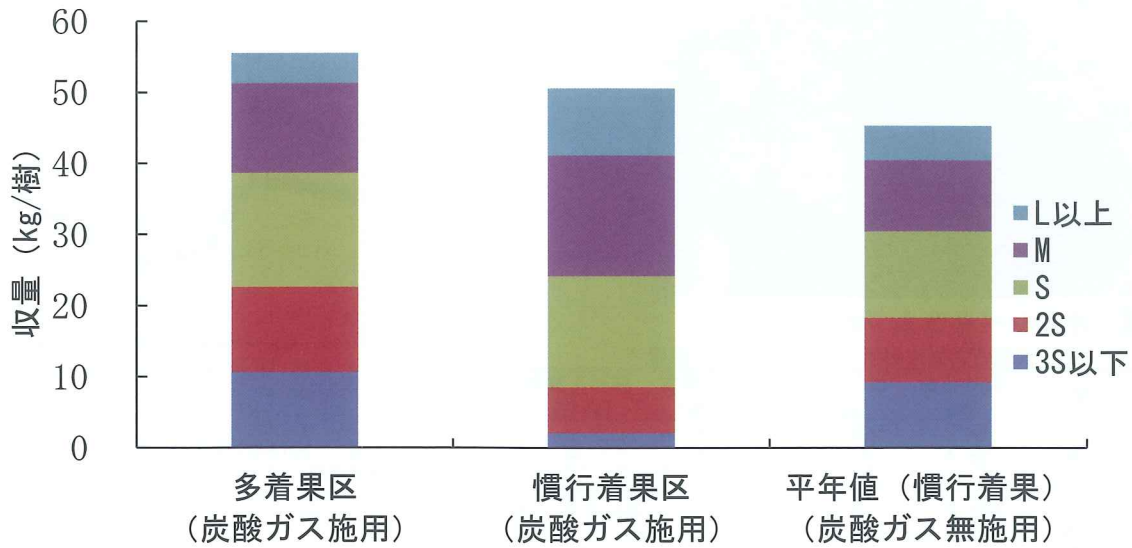


図1 炭酸ガス施用および着果量の違いが果実階級に及ぼす影響 (2018)

表1 着果量の違いが果実品質に及ぼす影響(2018)

処理区	果実重 (g)	果径指数	果皮 (%)	果肉 (%)	果汁 (%)	糖度計示度	クエン酸含量 (g/100g)
多着果	64.5	137.8	19.3	80.0	91.7	13.3	0.67
慣行着果	69.4	137.7	19.5	78.8	90.7	12.7	0.71

果樹試験場では生産性を向上させるために、施設カンキツにおける環境制御技術の開発に取り組んでいます。ここでは、温州ミカンにおいて炭酸ガス施用および着果量の違いが果実品質と果実階級に及ぼす影響について紹介します。

試験区として、着果量を離れた多着果区と慣行着果区を設け、12月中旬加温の「興津早生」で12月16日～6月1日まで炭酸ガスを600ppm設定で5～18時の間施用しました。

慣行着果区（炭酸ガス施用）では、平

年値（炭酸ガス無施用、慣行着果管理）と比べて果実は大玉化し、収量が増加する傾向でした。多着果区（炭酸ガス施用）では、着果負荷により慣行着果区と比べてやや小玉化しましたが、糖度は高く、収量は増加しました（図1、表1）。したがって、炭酸ガス施用時に着果量を増やすことで、果実階級を維持しつつ収量を増加させる可能性が示唆されました。

今後は、好適な炭酸ガス濃度、かん水管理等について検討します。

（果樹試験場 杉本達哉 088-844-1120）

高知県農業技術センターニュース 第97号 令和元年10月1日

編集発行 高知県農業技術センター 所長 竹内 繁治

農業技術センター

〒783-0023

高知県南国市廿枝 1100

TEL (088) 863-4912

FAX (088) 863-4913

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2012>

果樹試験場

〒780-8064

高知市朝倉丁 268

TEL (088) 844-1120

FAX (088) 840-3816

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2013>

茶業試験場

〒781-1801

吾川郡仁淀川町森2792

TEL (0889) 32-1024

FAX (0889) 32-1152

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2014>